

港北区災害ボランティア連絡会 News



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

127号

2024年4月



- * 入会は随時受け付けています。
- * あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。

事前防災に予算をたっぷり

能登半島地震の特徴は住宅崩壊による圧死が多いことです。高齢化率が五割を超える地域で、いまさら家を補修しても、と考える気持ちは同じ高齢者として良く分かります。しかし住宅が壊れ、しかも死者も出た場合は、こんなにも多くのお金が使われるのです。

被災者生活再建支援法	300万円
災害時死亡弔慰金	500万円(所帯主の場合)
住宅の公費解体	100万円～(住宅の大きさで違う)
仮設住宅	561万円(法定費用)実態は1000万円越え 解体費用100万円～(大きさで違う)
能登半島地震の特別交付金	300万円

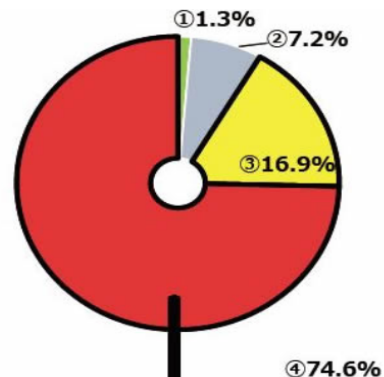
これらの費用は合計 1800 万円程度と見積もられます。この半分でよいからなかなか進まない住宅の耐震補強への助成に回せば、人命を救うことができ、しかもあの劣悪な環境の避難所で長く暮らすことも避けられます。

被災者生活再建支援法は、個人への財産支援はできないと反対する大蔵省(当時)の声に対し、阪神淡路大震災で被災した市民の声が1998年に通した法律でした。しかも当初は100万円だったのが、その後改正されて今は最大300万円になっています。しかし将来必ず起きる南海トラフや首都直下地震を考えると今のような支援制度は予算的に不可能と言えます。そうならないためには事前防災の助成制度の充実がとても重要です。その結果個人住宅の耐震度が上がっていけば、これこそ真の国土強靱化と言えるでしょう。予算の使い方を決めるのは国会ですが、国民の声がものをいうのは被災者生活再建支援法制定でわかります。私たちの命と生活を守るための助成制度の充実を求めることはとても大切なことです。

判定	評点	件数	割合
①倒壊しない	1.5以上	368	1.3%
②一応倒壊しない	1.0～1.5未満	2,002	7.2%
③倒壊する可能性がある	0.7～1.0未満	4,715	16.9%
④倒壊する可能性が高い	0.7未満	20,844	74.6%
合計		27,929	

耐震補強工事の平均施工金額 167万7,421円
耐震補強工事の施工金額中央値 140万0,000円
平均築年数 37.15年

日本木造住宅耐震補強事業者協同組合
(木耐協)HP より



⚠ 「9割超」の住宅が現行の耐震基準を満たさず

港北小学校能登半島地震支援活動報告

港北小学校では子どもたちも積極的に関わって能登半島地震支援活動を行っています。今回の支援をきっかけに能登と横浜の学校がつながるきっかけとなるかもしれません。
(宇田川)

元旦に地震が発生し9日に新学期が始まりました。児童と教員で相談をする中に、例年1月の時期にユニセフ募金を実施していたこともあり、児童の希望により17日～19日にかけて併せて能登半島地震の募金を実施しました。募金額188,649円でした。

私の被災地支援の経験から学校長に募金の使途について提案をしました。集まった募金を赤十字などの団体に預けるのではなく、被災した方々へ直接届けることで児童たちがより身近な問題として考えるきっかけになることを伝えました。

具体的にどうするか相談を重ね、模造紙に励ましの言葉を書いた寄せ書きを作成することと、まだまだ寒さ厳しい時期に身体と心を温めてほしい気持ちで、ホッカイロを全児童数750個購入して、一つひとつに児童が励ましのメッセージを書いた物を用意しました。



1月30日に珠洲市に入り三崎町の三崎中学校避難所で炊き出しを行い、三崎中学校と併せて6カ所の避難所を中心にホッカイロを配りました。その中の一人のご婦人が涙を流されながら、「宝物として飾ります」と言われました。31日早朝に横浜に戻り、港北小学校の朝会において児童たちに報告を行いました。

その後、2月23日に再び支援に行くに併せて、寄せ書きの届け先を珠洲市立飯田小学校に連絡相談をした結果受け取ってくださることになり、疲れが出る時期と考えチョコ菓子を併せて渡すことを考えました。保護者から高級なみかんの寄付もあり、一部の児童たちがチョコ菓子に貼る励ましのメッセージカードを作成してくれました。それをすべて飯田小学校に届けました。残りの募金の寄付先を児童たちが調べ選定したのが、輪島市、珠洲市、能登町、穴水町でした。その中で珠洲市と能登町は直接届けられると考え、3月27日に珠洲市入りしました。再び飯田小学校訪れ募金から購入したえんぴつと消しゴムを渡し、珠洲市役所、能登町教育委員会に募金を手渡しました。

(港北小学校PTA会長 遠藤教一)

【防災コラム】 防災一口メモ 「めがね、入れ歯」

災害時に無くては困るものはいろいろありますが、近視の人にとってはメガネもその一つ。メガネが無ければ完全に要支援者になります。大きな揺れでも飛んでいかないように、私は夜寝るときは枕の下に入れます。最近の枕は大きいし、柔らかいのでメガネがつぶれる心配はありません。

でも困るのが入れ歯の置き場所。まさかこれも枕の下とはいかず、洗浄液につけておかないとダメなので解決方法がありません。洗面所を整理しておき、揺れているいろいろなものが散乱しても探しやすいようにするほかなさそうです。ただし非常用備品に入れ歯洗浄剤を入れておくことは必須です。

(宇田川)

台湾では仏教会がTKBを実施

台湾も度々大きな地震に襲われる国ですが、今回は仏教系慈善団体「慈濟基金会」が備蓄をしていたベッド、テント、そして温かい食事を提供したそうです。発災3時間後には用意でき、温かい食事も提供されたことが話題になりました。

日本でも東日本大震災で宗教や宗派の違いを乗り越えて「祈る」ことの大切さや癒しの効果が認識されてきましたし、宗教系の災害ボランティア団体は数多くあります（ひのきしん隊＝天理教、シャンティ国際ボランティア会SVA＝曹洞宗、金光教大阪災害救援隊＝金光教、ワールドビジョン＝キリスト教）など数多くあり、宗教者災害支援連絡会も作られています。ここまでの備えをする団体は日本には無いようです。

ちなみに台湾の行政は災害対応マニュアルを持っていないそうです。訓練を重ねているのでみな頭に入っているため必要ないと日本からの取材に答えている場面を見て、その心がけの違いにびっくりしました。

もちろん備蓄については行政がきちんと準備をしておくのが基本なのですが、そのためには政治がこの問題に気がつくことが大切です。能登半島地震での国会論議で「スフィア基準」という言葉が出てきました。この言葉をすべての議員が知っているといいのですが。

(宇田川)

※スフィア基準

被災者が尊厳ある生活を営めるような最低基準を示した国際基準。トイレの男女比数とか、必要最低限の水の供給量など細かく記載されています。

※TKB トイレ・キッチン・ベッドの略称

災害本

「被災したあなたを助けるお金とくらしの話」

岡本正 弘文堂 1430円＋税

「ぼくがこの本で伝えたいのは『希望』です。…とつぜん災害で大きな被害を受けたとしても、絶望することなく、前を向いて最初の一步を踏み出せるための知識を備えてほしい」と著者は述べています。

弁護士として東日本大震災にかかわる法律相談のデータベース化を図った経験から、被災したときに必要となる法律知識をとてども分かりやすく書いてくれています。

法治国家ではすべての行政活動は法律に基づいて行われます。しかし大きな災害を初めて経験する自治体ではどんな法律が使えるのかを行政側も良く分からないことが多くあり、その結果被災住民が辛い思いを強いられたり、経済的に不利になることがあります。

住民も法律を知っておかなくてはなりません。

(宇田川)



【防災・減災カレッジから学ぶ】

今回は、2023年11月4日に開講された「防災・減災カレッジ 市民防災コース2日目」の岐阜大学流域圏科学センター・小山真紀准教授の「自主防災活動と地区防災計画」のセッションからの「学ぶ」です。セッション中で、小山准教授が話をされていたKeyWordをピックアップしてみました。これらのKeyWord、みなさんはどう「解釈」されますか？

- ◆ 「計画を作る」と「実行する」ことは別の話です。その計画、「実行できる」計画になっていますか？また、実行していますか？
- ◆ 計画を作っても、行動しなければ意味がない。
- ◆ 人間には、対策を行わない方に働くメカニズムが備わっているため、情報や教訓を積み上げて「やるべきだ！」というだけでは対策が進みにくい。
- ◆ 課題解決の基本は、具体的なところまで突っ込んで考えること。
- ◆ 訓練で見つかる課題は、改善のための宝物。
- ◆ その地域にとって必要な対策、効果のある対策は、その地域のひとだからこそ分かる。
- ◆ 防災活動あるあるですが、「やること」が目的になってしまって、「なぜそれをするのか、それをする事で何を実現したかったのか？」が忘れられていることが多々あります。
- ◆ 自分たちは何を実現したいのか、そのためには何をすることが必要なのか、やってみた結果、効果はあったのか。これをしっかり意識し、確認することが大事です。

台湾の話ではありませんが、計画＝マニュアルとすれば、それ以上に日々の打ち合わせや訓練が大切だということでしょう。

(中島)

ちょこっとコラム

みなさま、いつも復興支援にご協力ありがとうございます。
定番の品物について仲間から得た情報です。

- (1) 作業所きらり 乾燥ごぼう「お手軽ごぼうくん」
そのままお味噌汁やお鍋に一掴み‘ばさっ’で大丈夫。
さがぎの手間も不要、お手軽に使えます。
- (2) 作業所きらり 乾燥リンゴ「スティックりんごさん」
「ソフトチップスりんごさん」
ちょっと気取って紅茶に浮かべるとアップルティに。
軽く割ってサラダにふりかけてもおしゃれです。

被災地経済復興支援の品物を購入いただいた時に、
お役立てください。



(小澤)

【編集後記】

- ▶ 3月末で港北区社会福祉協議会の渡邊さんをご事情でご退職、YMCA鴨下さんが転勤されました。新しい環境でのますますのご活躍を期待しています。ボーイスカウト日本連盟では珠洲市にボランティア拠点を立ち上げましたが、インフラの復旧が進まない上に現地のスタッフの方への負担が大きくなっていて、週末のみのボランティア募集を余儀なくされています。(中島)
- ▶ ここのところ地震が増えています。ドキドキしています。でも、来るものは避けられないので、防災・減災、備えに徹するしかありません。身の回りをもう一度確認しましょう。(付岡)